

## (2) 東北



東北地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

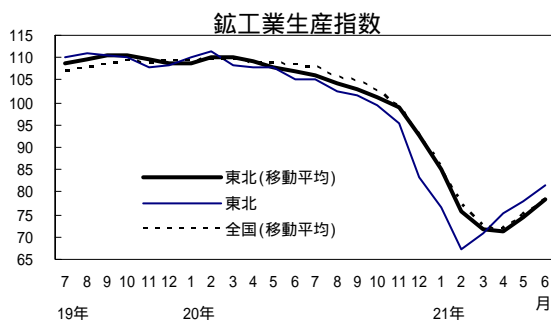
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年5月)	今回(平成21年8月)	
景況判断	緩やかに悪化	持ち直しの動き	
鉱工業生産	下げ止まりつつある	持ち直している	
個人消費	弱い動き	持ち直しの動き	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は持ち直している。

電子部品・デバイスは、モス型半導体集積回路(ロジック)及びコネクタを中心に大幅に上昇している。食料品・たばこは、加工食品が堅調だったため、おおむね横ばいで推移している。一般機械は、半導体製造装置などで大幅に減少しているものの、6月はダイヤモンド工具を中心に上昇している。情報通信機械は、デジタルカメラ及びノート型パソコンを中心に上昇している。化学は、キシレン及びふっ素樹脂などで減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電子部品・デバイス	17.9	41.8	64.8	69.7	4.5
食料品・たばこ	11.8	4.8	0.4	2.5	0.4
一般機械	10.1	31.3	14.9	11.3	7.7
情報通信機械	9.6	16.2	3.0	2.4	14.2
化学	7.0	2.2	2.6	0.4	7.0
鉱工業	100.0	22.8	9.2	11.7	5.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

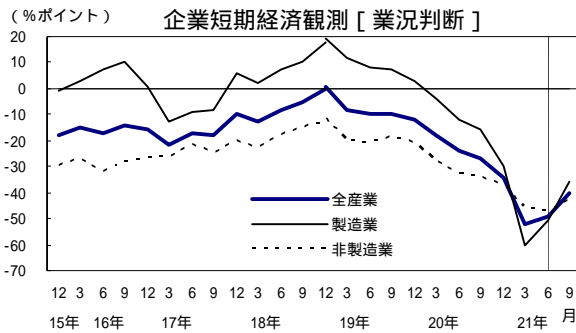
2. 4~6月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

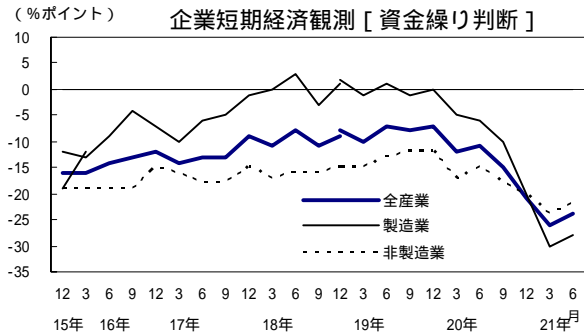
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

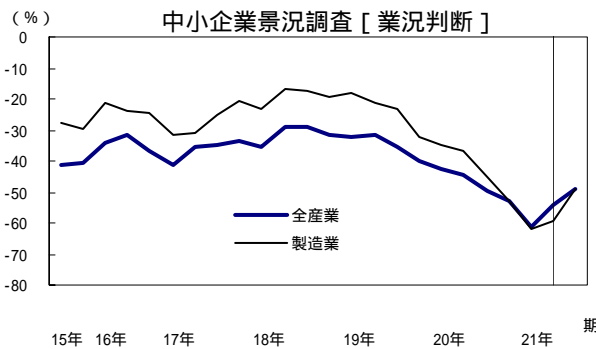
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

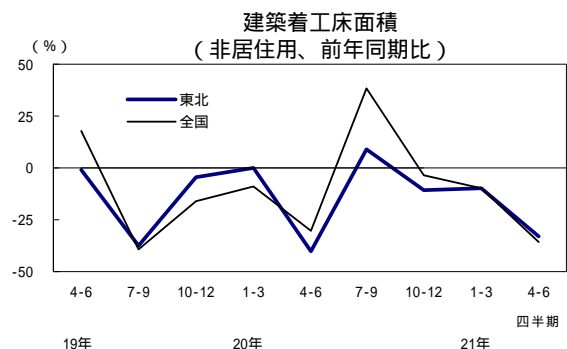
「高速道路料金引下げ効果により、高速道路のサービスエリアでの売上は増加しているが、新幹線の利用客の減少により駅での売上が減少している(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

### 企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	30.1 (3.0)	31.0 ( 1.0)
製造業	39.1 (3.9)	34.7 ( 2.5)
非製造業	1.8 (1.2)	23.0 ( 1.8)

(備考) ( )は前回(3月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

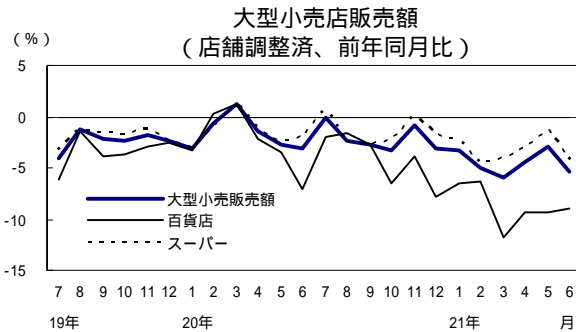
大型小売店販売額

百貨店は、4月は、飲食料品が催事等により生鮮商品や菓子に動きがみられたものの、下旬の低温等から春・初夏衣料全般が低調だったことから、衣料品全般がふるわず、前年を下回った。5月は、衣料品では、紳士の初夏物に動きがみられたものの、全般的にふるわず、身の回り品も母の日関連ギフトが低調だったことから、前年を下回った。6月は、衣料品では父の日関連で紳士のポロシャツ等に動きがみられたものの、全体に低調となり、身の回り品では海外ブランド等の高額商品がふるわず、前年を下回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の7月の売上高は前年同月比で8.7%減となっている。

スーパーは、家庭用品がエコポイント効果から液晶テレビ、冷蔵庫に動きがみられたものの、全体的に伸び悩み前年を下回った。衣料品は全般的にふるわず、飲食料品は精肉、鮮魚等が低調であったことから、前年を下回った。

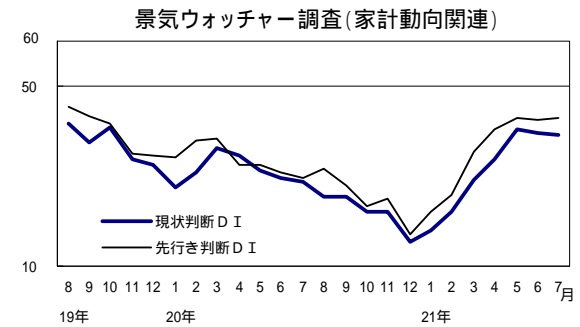
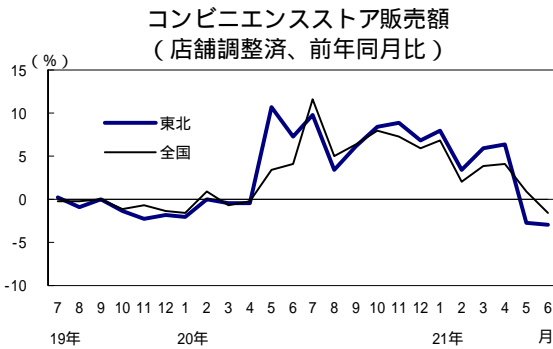
景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「生ビールの消費が動く時期に天候不順が重なり、ビアガーデンからの注文がキャンセルされるなど売上が伸び悩んでいる(その他専門店[酒])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
大型小売店	1.7	2.5	4.7	4.2
百貨店	2.1	6.2	8.4	9.2
スーパー	1.7	1.3	3.7	2.9
乗用車	0.4	11.2	20.5	15.3
景気ウォッチャー	26.6	19.9	23.0	37.9

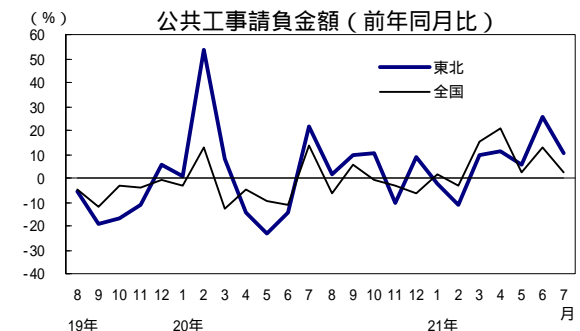
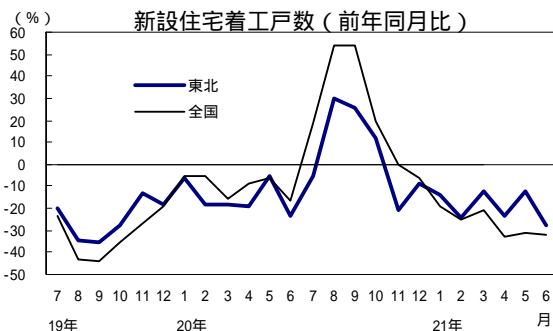
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。  
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。  
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

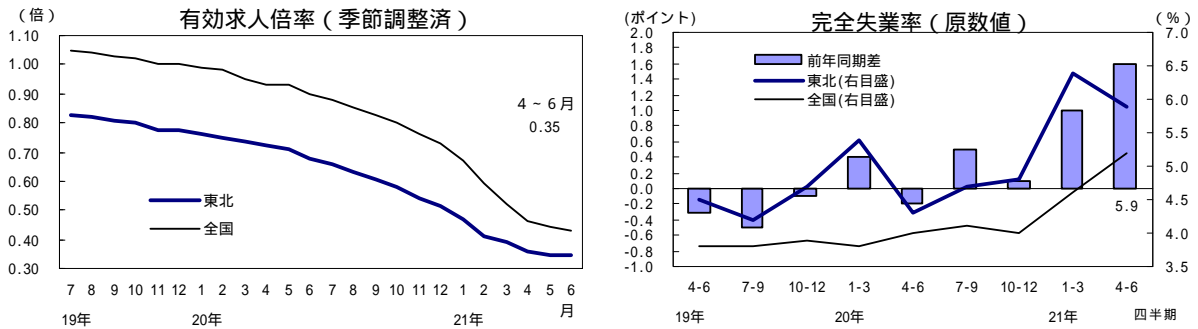


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

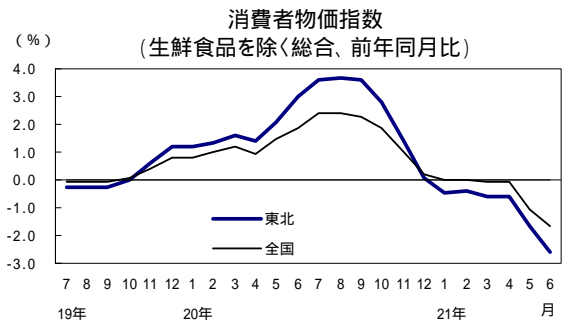
「派遣契約の未更新案件が増加しているものの、低調ながら新規契約もできてきていることから、実稼働者は横ばいで推移している(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数	288	261	239	231	84
(前年比)	32.1	7.9	9.5	20.6	16.0
負債総額	1,089	729	739	776	147
(前年比)	78.4	10.0	22.3	21.1	60.7



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・環境対応車への減税や補助金制度が浸透して、1年ぶりに新車販売台数が前年を上回っている(乗用車販売店)

<先行き>

・天候や総選挙後の先行きは不透明だが、一部製造業で回復の動きが見られることから、今後客単価と売上の改善が期待できる(コンビニ)

